

会長	副会長	事務局長	事務局員

平成23年度第1回平川市地域公共交通協議会会議録

開催日時	平成23年6月1日（水） 午後1時30分～午後3時
開催場所	平川市役所本庁舎3階 応接室
案件	1) 平成22年度事業報告について 2) 平成22年度収支決算について 3) 会計監査報告 4) 新屋尾崎直行便の結果について 5) 尾上線の途中経過について 6) 平成23年度事業計画案について 7) 平成23年度収支予算案について
出席者	【出席委員】 ・佐藤順一副会長 ・葛西幸夫監事 ・今俊一監事 ・木村雅彦委員 ・藤田潔（代理） ・下山敏則委員 ・一戸修一（代理） ・八木橋長委員 ・奈良豪（代理） ・田中和男委員 ・山下祐介委員 ・古川敏夫委員 ・小野敬子委員 出席委員13名 【欠席委員】 ・菊池武弘会長 ・豊嶋修委員 ・大黒正勝委員 ・成田修治委員 ・喜多秀行委員 ・小田桐信勝委員 ・佐藤成子委員 出席委員7名 【その他出席者】 ・NPO法人ひらかわマイバスの会 成田準輝 【事務局】 事務局長：鳴海和正 事務局員：長谷川尚道、山田一敏、小林豊
鳴海課長	<p>定刻になりましたので、ただいまより平成23年度第1回平川市地域公共交通協議会を開催いたします。</p> <p>本日の協議会から人事異動により委員の交代がありましたのでご報告致します。本日欠席となっておりますが、弘南バス株式会社の工藤委員は福地乗合部長に、同じく本日欠席となっておりますが、青森県中南地域県民局地域整備部の一戸委員は浅利道路施設課長に、同じく本日欠席となっておりますが、黒石警察署の関委員は、福田交通課長に交代となっております。</p> <p>また、本日は、菊池会長、社団法人青森県バス協会専務理事の豊島委員、平川市行政委員連絡協議会会長の大黒委員、青森県交通運輸産業労働組合協議会幹事の成田委員、神戸大学大学院工学研究科教授の喜多委員、平川市議会議長の小田桐委員、NPO法人ひらかわマイバスの会理事長の佐藤委員が欠席、弘南バス株式会社福地委員の代理として藤田受託路線課係長、青森県中南地域県民局地域整備部浅利委員の代理として一戸地域整備部次長、黒石市警察署福田委員の代理として奈良規制担当巡査部長が出席しております。本日の出席委員は、20名中13名となっており、過半数の出席委員がありますので、会議は成立いたしております。</p> <p>なお、本日は、新屋尾崎直行便調査業務の報告者としてNPO法人マイバスの会から成田様も出席しておりますので報告させていただきます。</p>

	<p>また、本日は、菊池会長が欠席となっておりますので、議長は規約により、佐藤副会長にお願いいたします。それでは、佐藤副会長には、議長席にお移りいただきたいと思ひます。</p>
議長 (佐藤副会長)	<p>ご紹介いただきました、佐藤でございます。皆様におかれましては公私ともにご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>さて、昨年10月1日から尾上地域では金屋線と日沼線、11月25日からは新屋尾崎直行便が実証運行されました。また、12月4日からは、循環バス新屋・尾崎線、唐竹・広船線が本格運行されております。</p> <p>本日は、尾上地域金屋線・日沼線と新屋尾崎直行便の実証運行の状況報告、それから昨年度の決算、今年度の実施計画と予算案についてご審議を頂くことになってございます。皆様からのご意見と慎重審議をお願い申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。</p>
鳴海課長	<p>ありがとうございました。それでは議事進行について佐藤副会長にお願いします。</p>
議長 (佐藤副会長)	<p>それでは、議長を務めさせていただきます。よろしくお祈りいたします。</p> <p>早速ですが次第に従いまして本日の議事を進めてまいります。</p> <p>次第にあるとおり、議事1)平成22年度事業報告、議事2)平成22年度収支決算、議事3)会計監査報告について、事務局から説明をいただきたいと思ひます。</p>
事務局	<p>(資料に基づき説明)</p>
議長 (佐藤副会長)	<p>ただいま説明がございましたけれども、監事の葛西様から監査報告をお願いいたします。</p>
葛西監事	<p>それでは会計監査報告を致します。平成22年度平川市地域公共交通協議会収支決算について、関係帳簿・書類等を照合審査した結果、その内容は適正なものと思ひます。23年6月1日監事葛西幸夫、監事今俊一さん。以上です。</p>
議長 (佐藤副会長)	<p>はい、ありがとうございました。ただいま前年度の事業報告並びに決算報告、会計監査報告がなされました。この件につきましてご質問がありましたら、お願いしたいと思います。</p>
委員	<p>なし。</p>
議長 (佐藤副会長)	<p>なしという声が出ておりますけれども、よろしいでしょうか。</p> <p>無ければ、平成22年度収支決算については承認されたものとしてよろしいですか。</p>
委員	<p>はい。</p>
議長 (佐藤副会長)	<p>それでは、22年度収支決算については承認されたものとして、次に議事4)新屋尾崎直行便の結果、議事5)尾上線の途中経過について事務局より説明願ひます。</p> <p>また、NPO法人のひらかわマイバスの会、成田様から、新屋尾崎直行便の利用実態調査の報告があるのとのことですので事務局より説明後報告をお願いいたします。</p>

事務局	(資料に基づき説明)
議長 (佐藤副会長)	はい、ありがとうございました。それでは NPO マイバスの会、成田様からご報告をお願いいたします。
マイバスの会 成田	<p>ひらかわマイバスの会の成田準輝と申します。本日は時間をとって頂きましてどうもありがとうございます。</p> <p>簡単な自己紹介をしますと、21 年度新屋の実証運行の時も山下先生のゼミ生として、卒業論文で取り上げていまして、その関わりで、昨年度もずっとこの取り組みを手伝わせて頂きました。現在は、青森市役所で職員をしております。それでは、今回の結果について、報告させていただきます。</p> <p>まず資料ですがレジュメの 1、2、3 ページとその次に実証運行の路線図とその裏にバスの時刻表、その次に資料 1 として動態調査の結果を説明するもの。そして、資料 2 として通学日誌というものを作りましたが、それを説明するものが 2 ページから 10 ページまであります。</p> <p>まず、レジュメの 1 ページをご覧ください。事務局の方がもう大体説明していただきましたのが、もう一度簡単に私の方からも説明いたします。</p> <p>21 年度は、新屋地区、新屋町会が単独で取り組みをしまして、朝 1 便あたり 12 名から 15 名くらいの利用があつて、帰りがやはり学生がばらけるということで、あまり利用がなく、先ほどのような数字の結果になっています。そこで 22 年度は 21 年度の結果として学生が結構頑張つて利用してくれても足りていないということは、数の問題もあるだろうということで、となりの尾崎地区と協力してやるとある程度の人数が見込めるのではないかとということで、昨年度は、新屋町会・尾崎町会協力して取り組むという方向になりました。</p> <p>話し合いは、昨年度、計 5 回行いまして、そこで新たな路線の設定ですとかダイヤの設定を話し合いで決めていきました。</p> <p>そこで、運行コースとダイヤですが、先ほどの路線図を見ていただければ、わかるのですが、朝は尾崎公民館を始発として尾崎地区をまわり、さらに松野地区を経由し、新屋地区に入り、そのまま平賀駅に向かうというコース、帰りは、この逆のコースですが、このようなコースに設定いたしました。</p> <p>松野地区に関しては高校生が数名いるということで、もしかしたら利用が見込めるかもしれないということで、松野地区を経由させようという話し合いの結果から、松野地区を経由する路線になりました。</p> <p>運行の時間についてですが裏をご覧ください。特に話し合いの中で気にされていたのが朝の時間です。朝の時間の 5 分が大きいということで、尾崎公民館発を 7 時 5 分にするのか、それとも 7 時 10 分に遅らせることができるのか、ということが話し合われましたが、結局 7 時 10 分でも大丈夫だろうということで、7 時 10 分から出発にするという時間になっております。レジュメに戻っていただきまして、レジュメの 3 番に定期券、先ほど事務局からの説明がございましたが、定期券の要望が多かったので、定期券を発行します、ということになったのですが、利用者は 2 名のみということでした。</p>

この理由はあとで少し説明をいたしますが、おおかたの理由としては、やはり、特に3年生を持つ親御さんの方からすると、定期券だと損をするんじゃないかということで「ちょっとあれだと買えないなあ」という話が多くあったのを覚えています。

今回我々は、2つの調査を行っています。1つが動態調査といった実際にバスに乗り込んでどこから何人乗ってくるかというのを記録する調査、もう1つは、通学日誌といって、高校生がいる家庭に毎日どういう交通手段で何時に学校に行き帰ってきたか、というものを記入していただいてもらうというものを1ヶ月やりました。

まず、動態調査の結果から、説明いたします。

資料1と右上に書いている動態調査の結果についてご覧ください。調査者は弘前大学の学生2名にそれぞれ行っていただいて、それぞれ路線ごとに5日間ずつ調査いたしました。

一応、この表なのですが乗車したバス停、降車したバス停、それぞれ5日間ずつの中で何人、計何人そこで乗車または降車しているかということで、そのうち定期券を使った人は何人いたか、回数券を使った人は、何人いたかということをもとめて表に表したものです。

表を見ると分かるとおおり、この動態調査をやった時点で、乗っている人が昨年21年度に比べて極端に少ないということが明らかになってきました。調査者から、学生たちからの意見や感想としては、まず真っ先に利用者が思ったよりも少ないんじゃないかということで、さらに雪が積もっていないから利用者がいないとか、雪が積もったから利用者が増えたっていうにはとても見えないということもありました。

また、高校生に話を聞いてもらったりもしていたのですが、バスを利用することへの意識付けが弱いように感じています。

「なぜ、バスが走っているのかな？ なぜ、直通のバスがあるのかな？」ということすら理解されていないというような話がありました。

さらには定期券の存在、定期券のメリット自体がうまく伝わっていなかったということ。そして、スクールバスのイメージが強すぎて、高齢者の方に「これってわかるんだが・・・？」って聞かれたっていうことが何度かあったということもあり、ちょっとスクールバスのイメージが強すぎでしたということ。

もう一つは、提案なんですけど、運転士さんが割りと詳しくだったので「インタビューするとどうなのですか」ということでした。

さらに12月の1ヶ月間、新屋地区・尾崎地区の学生たちに通学日誌というふうな1ヶ月間の日誌をつけてもらいました

資料2をご覧ください。通学日誌については、その日通学したかどうか、自宅を出発した時刻と自宅に着いた時刻、自宅から平賀駅までの交通手段、更に送迎の場合はその理由を全部書いていただきました。

期間は12月1日から12月25日まで、バスが運行している期間です。

ちなみに、対象者は新屋地区及び尾崎地区各10名ずつ、町会長さんに頼んで配布

マイバスの会
成田

しました。

ちなみに 21 年度は、新屋地区のみで、この通学日誌の同じような調査をやっていて、新屋地区のみで約 20 名の学生に回答していただいています。22 年度の通学日誌については保護者アンケートについてもおこなっており、その日誌とともに配布いたしました。

バスがあってありがたかったかどうか、今後も直通バスを続けて欲しいかどうか、定期を購入したかどうか、バスの運賃が高いかどうか、さらに自由意見ということで保護者の意見についても行いました。資料の 2 ページ、3 ページ、4 ページが実際に配布した通学日誌です。

5 ページから通学日誌の結果について報告していきます

さきほど申し上げたとおり今回配布した人数は、計 20 名です。学校名と学年に関しては以下に書いてある表 1 の通りです。ちなみに不明というのは学校名及び学年を書いていない人も何名かおりましたので不明というふうにさせていただいております。

それでは図の 1 をごらんください。これは移動の手段を割合別に示したもので、何月何日にどのような手段で通学したかということアンケートで答えてもらい、それをすべて集計にして割合に示したものがこの図の 1 です。

左側から自転車、赤いものがバス、緑の送迎 A というのは、通勤する家族の車と一緒に乗っていきましたというもの、少し濃い青の送迎 B というのは、自分が通学するために家族がわざわざ送って行ってくれたというもの、薄い青の送迎 C というのは、友達の送迎の車と一緒に乗って行きましたというものです。

今回、行きに関しては、24%、帰りに関しては 15%、大体バスの利用がありました、ということですが、21 年度に新屋町会だけで行ったときは、行きに関しては、40 パーセント超、帰りに関しても 20 パーセント超のバスの利用があるという結果であり、今回緑色が増えていますが、やはりバスの利用が確実に減っているということが見て取れます。

6 ページをご覧ください。これは 20 名全員分どのような手段で通学しているかということを表したものです。

薄いピンク色が自転車、濃い赤がバス、さらに送迎を全部まとめて青として図に表したものです。パッと見でわかるのですが、バスを利用している人がおそらく日常的に利用しているであろうと考えられる人が大体 6 名ほどしかいないという結果になっています。

ちなみに昨年の 21 年度の結果を申し上げますと、10 名以上、10 数名の学生が、赤い色に大体染まった部分があって、21 年度に比べるとやはり 22 年度の結果としては、バスを利用せず送迎で通学していた学生が多いという結果がみてとれます。

7 ページをご覧ください。7 ページの図 3 は、「家を出た時間帯別もしくは家に帰ってきた時間帯別にどのような交通手段を使いましたか？」というものを聞いたものを図にあらわしたものです。

まず行きについてですが、7 時から 7 時 14 分間に家を出たという人にバスが集中していますが、この時間帯 7 時 10 分から尾崎地区からバスの運行が始まってい

マイバスの会
成田

るので、この時間帯にバスが集中しています。

ちょっと見ていただきたいのが、この7時15分から7時半前後にかけて、送迎の数が圧倒的に多くなっております。

21年度の新屋地区で行った調査ではこの数が7時15分から7時29分の93人という送迎の数より少ないという結果になっており、バスを使っていないということが見て取れます。

帰りについてですが、18時から18時29分、20時から20時29分の2つの少し大きく山になっているように感じ、帰りのバスがちょうど合う時間帯であり、その他はバスが無いため大体送迎となっております。

あの、21年度の結果と比べますと、この2つのバスのある時間帯の間が極端に減っていて、学生たちがどうにかしてバスに時間を合わせてくれているなということが読み取れたのですが、今回に関しては、特にバスがある時間帯だとしても送迎の数が多く、やはり利用が減っているなということが見てとれます。

8ページをご覧ください。8ページの図4と図5は行きと帰りの時間帯別に、なぜ送迎をしてもらったかという理由をあらわしたものです。先に21年度に新屋地区のみで行った結果を簡単に申し上げますと、そのときは時間が合わないという回答が圧倒的に多かったのに対して、今回は所要時間が短い、と、家族の通勤のついで、と、この2つが行きに関しては、多く見られます。

帰りに関して、その他が結構多いのですが、その他というのは、理由がわからない人が何名かいたのですが大体、友達の水に乗っている方、もしくは自動車学校に行っている方でした。帰りについても、17時から18時29分に関しては「家族の通勤のついでです」という回答が多く、家族の通勤のついでに送ってもらうという傾向が多いというのが特に見て取れます。以上が学生につけてもらった通学日誌についての結果です。

9ページに関しては、保護者へアンケートした結果を載せております。

問1はバスがあつてありがたかったかどうか、問2は通学バスを今後も続けて欲しいかどうか、問4に関しては運賃は安いかどうかという質問に対して結果を表にしたものです。これを見ますと、無回答が多いのですが、ありがたかったとする保護者が少ない一方、続けて欲しいという保護者が多く、バスがあつてもありがたいわけではないけど続けて欲しいという回答が多いなという感じがしています。

運賃について、今回、運賃は片道100円なのですが、高いという方はいませんでしたが、これ以上高くなると使えなくなるという方もいらっしゃいました。

それで問3は定期を購入しましたかという質問なのですが、定期を購入したのは2名のみだったので、定期を購入しなかった理由についての聞いておりますが、それに関して、やはり3年生であつたり、修学旅行が2年生の場合は間にはさまるために「利用日数が少ないと、ちょっと損するかな〜？」ということで、定期の購入を見合わせるという回答が多かったです。

最後10ページには、自由意見をすべて載せてあります。自由記述に長めに結構書いている方はやはり「バスがないと学校にいけない」だとか「あつてありがたい」という方が結構自由記述には書いていただいています。

これでレジュメの2ページをご覧ください。

問1に、2月までの分ですけど利用者数を載せてあります。22年度はやはり21年度より利用者は減っています。対象となる高校生が増えているにもかかわらず、利用者が減っていて、さらに3年生が抜けただけではなく、去年新屋地区で利用していた学生も22年度は利用していないということがあって、これを聞く必要がありもう一度町会とワークショップをもつ予定でしたが、町会の方で集まらないからできないだろうということで、断念し、高校生から話を聞こうということになったのですが、結局は保護者の方の2名と懇談会を開催することになりました。そこで話をきいた内容を説明いたします。

まず、大きな理由として実際は直通バスがなくても、どうにか子供の送り迎えはできるということがあるんじゃないかということでした。

やはり、家族が多くて車も何台か一家にあるので誰かが送り迎えができる上に、先ほどの通学日誌にもあるように通勤と通学の時間が重なる場合が多いとなったときにバスを使うよりだったら自分たちで送っていった方がいいかなという意識になるという話でした。

さらに小学校、中学校でも送り迎えをしていて、さらに高校でも当たり前のようになっている中で、なかなかそれを変えていくのは難しいのではないかという話でした。

それともう一つ宣伝不足というものがありまして、バスがあること自体がなかなか伝わっていないということ、さらに定期の利用が少ないというのがありましたが、定期の利用が73日分の定期ではなく、何日という日数分で購入できることが買っていくまでわからなかったのが、これが事前にわかっていたら3年生とかでも定期を利用して乗れたのではないかなという意見がありました。

6番の考察に移ります。

もう一度、新屋地区で直行便を運行させることになった理由を簡単に説明いたします。直行バスを運行するという経緯になったのは循環バスの利用者が減っていて、さらに減便していく、「このままじゃどうなるんだ?」「将来どうなるんだろう?」ということで、循環バスの利用者減に対して学生の通学バスを走らせて、学生を乗せて採算があるのであれば、この採算が合った分と循環バスと一緒に考えれば、どうにか残していけるかもしれない、というような意識があり、それでは、学生の通学バスをやってみようという風に21年度の実証運行を開始されています。

ですが、ここでもう一度、町会と一緒にバスを運行するわけ、利用する訳を考えて、意識付けすることも必要なのではないかと考えています。

さらに、今回これには書いていないのですが、21年度は町会長がバスを利用してくれそうなところを一軒一軒まわって頻繁に強くバスを利用してくれと言って、バスをできるかぎり利用してくれたのですが、22年度に関しては、少し、町会長の熱も少し冷めたようなことを地域の人がしゃべっていて、あまりこう強くバスに乗ってくれということがなかったのがあるかな～ということも言っていたので、もう一度町会として取り組むことが、どうできるかというのを考えていかなければならないのかなというふうに考えています。

マイバスの会
成田

<p>マイバスの会 成田</p>	<p>3 ページをご覧ください。</p> <p>実際はバスがなくてもどうにかなるのですが、徒歩でいかざるを得ない学生もホント少ないのですが、いるということは現実としてあります。バスがあればありがたいので利用するというのも少ないながらもいます。</p> <p>カバーするためにはバスにこだわらずに交通手段を何か確保する必要があるかもしれないということを書いてあります。</p> <p>加えて循環バスと一緒に考えていく必要もあるのかなあと考えています。</p> <p>また、いずれにしろ、町会でもう一度取組みを促すということが、どういう風に行えるかということを一且考えて、今後につなげていかなければならないんじゃないかなと考えております。</p> <p>以上で報告終わります。</p>
<p>議長 (佐藤副会長)</p>	<p>はい、ありがとうございます。以上、資料に基づきまして、事務局の方から新屋・尾崎直行便の結果、尾上線の途中経過、NPO マイバスの会の成田さんからそれぞれ新屋・尾崎直行便の利用実態についてご報告がありました。前年度よりも大分データも下回っておりますが、ただいまの説明について、何かご質問がありましたら、事務局並びにマイバスの成田さんにご説明をお願いしたいと思いますが何かございませんでしょうか？</p> <p>私から、失礼しますが町会の雰囲気というものが、どうなのかなあ。</p> <p>町会長は各地域の場合に無理やり押し付けたりして、非常に苦勞している人がよくあるんですけども、バスがせつかくこういうふうにして実証運行や循環バスを一生懸命走らせているけれども結論からしてどうですか。調べてみて。何か NPO の成田さん、実態は、保護者の意見もありましたけれども、何かの方向を変えるということも改善する余地がありそうな、あの、意見といいますか、どうですか。</p> <p>難しいですけども、遠慮しないで、率直に言ってください。</p>
<p>マイバスの会 成田</p>	<p>21 年度もずっと町会と話し合いから全部参加させていただいているのですが、22 年度に関して、途中から町会長とだけとの相談になってしまったこともありまして。もう、21 年度に比べますと、特に、来てくれる町会の人が少ない話し合いでどこまでできたのかなという疑問はあります。</p> <p>それと、レジュメには書きましたが、なんかこう、勢いという言葉で言っているものかどうか分かりませんが、そういうものが少し弱まったのかなあと感じます。新屋に関してですが。</p> <p>尾崎に関してですが、やっぱり、勢いをつけるだけのことができなかったかなと、動態調査の学生もそうですけど、新屋の利用だけでも去年、21 年度に比べると少ないのですが、尾崎は本当に利用していないという感じでした。</p>
<p>議長 (佐藤副会長)</p>	<p>はい、非常に難しい質問をぶつけてすみませんでした。ずいぶん大変な実証、実験をありがとうございます。</p> <p>ただいまの説明について、ご質問がありましたら、重ねてお願いしたいと思います。</p>
<p>下山委員</p>	<p>はい、弘南鉄道ですけども、親の意識的なものもあると思うんですけども、</p>

	<p>私も朝早くきて今も車の送迎をたまに来ているのを見てるのですが、どこからきてるかというのは把握していませんが、最近、自転車を積んで車で来るのが多いんですよ。</p> <p>駅の自転車置き場のところに自転車をおろして、そのまま電車で行くと、そういうのが雪が消えると目立ってきていますね。送迎の台数もやはり、冬と夏とそんなに遜色ないですよ。もっともっとね、今の時期になると忙しくなって送迎できなくなると考えていたんですけども、やはり、冬と、冬の後と比べても対して変わらないですね。4～5台少なくなっている状態で、大体そうですね、かなり全体的に見ると、40台くらいは来ていますよね。大体3日くらいで13台くらいは積んでくるんですね。その辺は、車の便利さというのがあるって、こちらのほうがいくら集落でお願いしてもちょっと難しい面があるのではないかと思うんですがね。その代わり廃止する、なくなると、利用する人に対して不便な面を考えさせられるだろうし、その辺非常に難しい局面にぶつかっているのかなと思っていますがね。意識の問題ってというのが一番大きな問題と考えているんですけどね。ほかの方はどう考えているかわかりませんがね。以上です。</p>
議長 (佐藤副会長)	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ただいま、ご報告ありましたけれども、それに加えて意見がありました、質問が何かありますか？</p> <p>山下先生、何かありますか。</p>
山下委員	<p>はい、私、何年か見させていただいて、その前に一回、唐竹でやってみたことがあるんですけども、参加してみた限りで言うと、さっき言っていましたけれども、平成19年に、かなり町会長が一生懸命やって浸透して乗ったんですけども、ハードルがまだ高くて、目標に達しなかったというあたりを後ろにとっちゃったかなというのが失敗だったのかなと思っていますけれども。それと、親の意識を変えないといけないので、いくら町会長が頑張ったからとはいって、うまくいくわけではない。ただし、最初の唐竹のことを考えると、それでも、乗っている方かなという気もしますし、全部で合計すると少ないんですけど、朝の一番は、比較的、それなりには乗っているのではという気がするので、できれば、せっかく実験して芽がでて、何人かの親御さんは、すごく大切であるという認識を持たれているみたいなので、できれば、この辺を芽を残して、育てていく方向で議論していただきたいなど。</p> <p>ただ、大事なものは、朝一番だけを残して帰りなしで、はたして大丈夫なのかどうか。元々、帰りがないと行きっぱなしじゃ困るということで、後ろをつけたわけで、3便にしているんですけども、後ろが全然乗っていないという、矛盾した結果になってしまった。</p> <p>それと、もう一つ課題としては便数を増やした、循環バスの組み合わせをやらずに、去年まで実験していますので、えっと、できれば、もう一年、せっかくあるので、なんとか一回それを踏まえて、最終形でここまでならできそうだというあたりをもう1年やってほしいなという。</p>
議長 (佐藤副会長)	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>その他、ご質問、ご意見ございましたら、なければ、それでは、次のページ6)</p>

	平成23年度事業計画案それから、議事の7)平成23年度収支予算案について事務局よりご説明をお願いします。
事務局	(資料に基づき説明)
議長 (佐藤副会長)	はい、ありがとうございました。 ただいま事務局の方からご説明いただきましたけれども、ご質問等ありましたら、お願いいたします。
山下委員	<p>いかんせん、あの一、やっぱり見ると、やりかたが違うんですけど、こういう言い方をするとあれですけど、数字だけ見れば、金屋線の方が成績がいいという、このあたりは、人口とのご関係でいうと、どんなふうに、理解しておくべき何でしょう。</p> <p>記憶でいくと、日沼線の方が、なんかすごく熱心に欲しいと言っていたような気がしてたんだけども、そうなるのかなと思っているのは、金屋線の方が必要性からいうと、乗るのかーというところで、やっぱり結局、金屋線の方が、すごく乗っていてそこら辺をどんなふうにして次の段階に進めばいいのか。</p> <p>その金屋線のように、日沼線になるのか。また、金屋線も、ちょっとこれでこの人数位で、まだ目標には達していないけれども、どんなふうに本格運行へ向けて判断していけばいいのかっていうそのあたり、事務局としてどのように考えているのでしょうか。</p>
事務局	<p>これだけでは、数字だけしかないなので、なんとも判断難しいところですが、今後町会にも入りその中で話し合いますので、細かい情報もコンサルさんに提供し、実態がどうなのかというのもあると思いますので、今の状況でどうするというのは、判断できないかと思います。</p> <p>今後、話し合いの中でコンサルさんとも話し合っ、協議会の皆様の意見も聞きながら決めていかなければいけないものと思っています。</p>
山下委員	その、金屋線、金屋という地域については、誰かまとめて乗れとっている訳ではないと思いますけれども。結構こういうものとして、住民の方は、関心を持っていて、かつ、まとまりやすいというイメージを前から持っていてんですけども、それに比べて日沼は弘前寄りで非常に都市的というか、そういうところが結果に出てくるのかなという気がしていて、人口的には、どうなんでしょうか。その日沼と金屋の数でいうと、金屋は数が多いからこれだけなのか。
事務局	沿線の人口は把握しておりません。
山下委員	<p>そこら辺を、今度どういう風に判断していくのかっていうのと、パッと、金屋線を外すと生活が大変なことになるから、金屋・新屋・尾崎・唐竹・広船、えっ、ここバス抜きだと、こう、これだと生活できないっていうことは、これからもおきてくる可能性はある。</p> <p>そうなのと、そうでない場所との判断の仕方、すごく難しい判断をこの3年目に、で、していかないといけないというところで、金屋のこれは、僕の印象では意外に乗ったんじゃないかなと思う。もっと、悲惨なことになるかなと。日沼のくらいが、</p>

	<p>大体こんなものかなと。</p> <p>ただ、もうちょっと乗ってくれないと困るかなという感じでみてるんですけど、採算性でいくとどうしても赤字になっているので、どこまで成功したという形で残していくのかって判断をこれからしなきゃいけない。</p> <p>この、呼び込みって、結構、んー。難しいかなと思っているところです。</p>
議長 (佐藤副会長)	<p>はい、貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>ただいまの山下先生のご意見を是非これから23年度ですね、実証、実験の際に、コンタクト取り合って、具体的にコンサルタントあてに依頼する場合、ご参考によるしくお願いしたいと思います。</p> <p>何かご意見ありませんでしょうか？</p> <p>無ければ23年度事業計画案並びに収支決算案、原案の通り承認してよろしいでしょうか？</p>
委員	異議なし。
議長 (佐藤副会長)	<p>それでは23年度事業計画案、決算案は、承認されたものといたします。</p> <p>その他で何か特にこの時間にご意見ございましたら……なければ、以上、皆さん長時間にわたりまして本当にお疲れ様でした。</p> <p>次の協議会は先ほどのスケジュールにもありましておとり10月から11月頃に、幹事会は10月頃開催となって、こういうような予定になっておりますのでその際もよろしくお願いしたいと思います。</p>
山下委員	ひとつだけ、ちょっと。
議長	はい、どうぞ。
山下委員	最後に、この連携計画の総括というのは、これは3月末にださなきゃいけないですか。これから2回目の実証運行をやって、それからすぐに3月にそれを取りまとめるのはかなり厳しいかなと思いますが。
事務局	今のところコンサルに1月末までを予定しておりますが決定されたものではありません。細かいスケジュールと計画の取りまとめは、今のところ未定となっております。詳しいお話をできなくて申し訳ありません。
議長 (佐藤副会長)	<p>はい、それでは、協議会を閉じることにいたします。</p> <p>どうもありがとうございました。ご苦労さまでした。</p>

以上会議顛末を報告するものである。

(報告者氏名) 事務局員 小林 豊